# ある日の暮方の事である。

広い門の下には、

この男の

B

か

に誰も

いな

6,

ただ、

所々丹塗の剥げ

**†**;

大きな

0

ク

人が

羅生門の下で

雨やみを待

つ

7

蟋蟀が

匹とまって

6,

羅生門が

朱雀大路に

ある以上は、

ح

の男のほ

# モトヤ明朝オールド3 12pt

二人の若い紳士が、すっかりイギリスの兵隊 のかたちをして、ぴかぴかする鉄砲をかついで、 白熊のような犬を二疋つれて、だいぶ山奥の、 木の葉のかさかさしたとこを、こんなことを云 いながら、あるいておりました。

「ぜんたい、ここらの山は怪しからんね。鳥も獣 も一疋も居やがらん。なんでも構わないから、 早くタンタアーンと、やって見たいもんだなあ。」

# モトヤ明朝モダン4 12pt

二人の若い紳士が、すっかりイギリスの兵隊 のかたちをして、ぴかぴかする鉄砲をかついで、 白熊のような犬を二疋つれて、だいぶ山奥の、 木の葉のかさかさしたとこを、こんなことを云 いながら、あるいておりました。

「ぜんたい、ここらの山は怪しからんね。鳥も獣 も一疋も居やがらん。なんでも構わないから、 早くタンタアーンと、やって見たいもんだなあ。」

# モトヤゴシックみやび6 18pt

親譲りの無鉄砲で小供の時から損ばかりしている。小学校 に居る時分学校の二階から飛び降りて一週間ほど腰を抜かし た事がある。なぜそんな無闇をしたと聞く人があるかも知れ ぬ。別段深い理由でもない。新築の二階から首を出していた ら、同級生の一人が冗談に、いくら威張っても、そこから飛 び降りる事は出来まい。弱虫やーい。と囃したからである。

番獰悪な種族であったそうだ。この書生というの

は

憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見

しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一

しめじめした所でニャーニャ

ー泣いていた事だけは記

何でも薄暗

どこで生れたかとんと見当がつかぬ。

吾輩は猫である。名前はまだ無い。

時々我々を捕えて煮て食うという話である。

吾輩は猫である。名前はまだ無い

時々我々を捕えて煮て食うという話である。 畨獰悪な種族であったそうだ。この書生と じめじめした所でニャー どこで生れたかとんと見当がつか しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一 吾輩はここで始めて人間というものを見 立いていた事だけは記 何でも薄暗

# モトヤ明朝モダン 6 16pt

メロスは激怒した。必ず、かの邪智暴虐の 王を除かなければならぬと決意した。メロス には政治がわからぬ。メロスは、村の牧人で ある。笛を吹き、羊と遊んで暮して来た。け れども邪悪に対しては、人一倍に敏感であっ た。きょう未明メロスは村を出発し、野を越 え山越え、十里はなれた此のシラクスの市に やって来た。メロスには父も、母も無い。女 房も無い。

それが、

この男のほかには誰も

いな

6

かにも、

雨やみをする市女笠や揉烏帽子が

もう二三人はありそうなも

のである。

た事がある。 に居る時分学校の二階から飛び降りて一週間ほど腰を抜かし 別段深い 譲りの無鉄砲で小 同級生の なぜそんな無闇をしたと聞 一人が冗談に、 理由でもない 供 9 時 から損 いくら威張っ 新築の二階から首を出してい ば か く人があるかも知れ ŋ ても、そこから してい **る**。 学 た

降りる事は

出来まい。

弱虫やーい。と囃したからである。

に居る時分学校の二階 がある。 譲りの無鉄砲で小供 同級生の なぜそんな無闇をしたと聞 理由でもない 一人が冗談に、 から飛び降りて一週間 9 新築の二階 から損 いくら威張っても、 か ŋ から首を出して く人があるかも知れ ل ر たからである。 ほど腰を抜 そこから か 学 1) 7-

吾輩は猫である。名前はまだ無

時々我々を捕えて煮て食うという話である。 憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見 **番獰悪な種族であったそうだ。この書生というの** じめじめした所でニャーニャ どこで生れたかとんと見当がつかぬ。 しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一 泣いていた事だけは記 何でも薄暗